世界の外貨準備の通貨構成とドル離れ

今年第二四半期末の世界の外貨準備の状況が明らかになった。IMF がまとめたその通貨構成の統計から読み取れるポイントを挙げる。

1．ドルの割合（59.23%）は前期より若干低下し、3 四半期連続で 6 割を切ったままだ。ドル指数は上昇しているが減少傾向に変化は見られない。第三四半期末のドル指数は年初来高値の水準(94.3 台)だが、この調子だと 6 割への復帰の可能性は少ないだろう。つまりドル離れの中長期トレンドは定着したと言える。

2．ユーロの割合（20.54%）は 2017 年第三四半期に 19%台から 20%台へ増加したが、以降 20%台で安定している。ユーロは世界の市場での取引量でも外貨準備の割合でも、ドルに次ぐ 2 番目に多い通貨だ。つまりドルの受け皿になる一番手の通貨だが、最近そうした特徴が見られない。

3．人民元の割合（2.61%）は増加傾向が続く。相変わらず計ったようにだ。2016 年第四四半期から人民元はこの統計に組み入れられたが、それ以来続く傾向だ。中国が人民元の国際化をコントロールした形で進めているのはこの統計を見ても明らかだ。

最近日本の GPIF がポートフォリオに中国国債を組み入れることに難色を示した。その理由として流動性リスクを挙げた。中国国債の市場の流動性は高いが、当局の意向で流動性が大きな影響を受けるリスクがある点を懸念したのだろう。

4．円の割合（5.79%）は 2020 年第四四半期まで増加傾向を続け、6.03%まで増加した。だがここ 2 四半期連続して減少している。ただアジアのポートフォリオの括り(人民元+円)で見た場合あまり変化はない。円の金利がかなり低い割には一定の水準を保っているのは、ポートフォリオのリスクヘッジの意味合いがある。

5．　ポンドの割合(4.76%)は第一四半期に続いて減少傾向はみられなかった。これにより BREXIT によりポンド離れが起こる懸念は杞憂に終わったと言える。

6．　オーストラリアドル(1.84%)、カナダドル(2.22%)は増加傾向を示した。その他通貨（2.83%）の増加傾向を含めて考えると、ドルからのシフトが広範な通貨に及んでいると推測される。これは中国のオペレーションの影響だろう。

以上です。